

閑上地区まちづくり協議会 世話役会(149) 議事録

| | |
|--------|---|
| 日 時 | 平成 30 年 9 月 25 日 (火) 18:30~20:45 |
| 場 所 | 名取市復興区画整理課会議室 (仙台法務局名取出張所 2 階) |
| 出席者 | 世話役 : (代表) 針生勉 (副代表) 阿部ひで・今野義正、(事務局長) 今野慎介、千葉洋子、宇佐美久夫 (事務局) コンサルタント 2 名 |
| オブザーバー | 市職員 震災復興部 2 名 仙台高専 坂口先生 学生 3 名 |
| 議 題 | 0. 事前確認 1. 情報共有 2. 秋祭りに向けて 3. 閑上地区のまちびらきに向けて 4. その他 |
| 資 料 | 資料-0 次第、第 148 回世話役会議事録案 資料-1 集会所ワークショップ開催概要 資料-2 閑上地区まちびらきプレゼン大会について 資料-3 プレゼン大会開催概要 資料-4 閑上中央集会所会館お披露目会のお知らせ |

○ 協議要旨

0. 事前確認について

<議事録確認>

- ・第 148 回世話役会議事録は、一部修正して確定することとした。

1. 情報共有

<名取市からの情報提供>

- ・中央集会所の開所式や西集会所のワークショップの開催などが案内された。

<前回からの動き>

- ・西集会所の第 1 回ワークショップは盛況で女性の参加者も多かったことが報告された。

<今後の動き>

- ・近々、かわまちテラスの起工式あるということが報告された。

2. 秋祭りについて

- ・秋祭りの展示は、復興プロジェクトの概要を中心に情報を提供する場として考えていくこととなった。

3. まちびらきに向けて

- ・まちびらきプレゼン大会に向けて、実行委員会での説明がされたことが報告され、各団体への積極的な参加への誘導として、提案事例をまち協が示すとともに、プレゼン大会の趣旨なども丁寧に理解して

もらうための準備をすることとなった。特に、参加団体へのまち協側の説明会を開催することとなった。

<次回世話役会>

・次回世話役会は10月2日（火）とする。

次回予定:世話役会(150) 10/2(火)18:30～ 名取市震災復興部会議室

以下、世話役会の主な意見について記載する。

0. 事前確認

資料-0 第148回世話役会議事録案

<議事録の確認>

・第148回世話役会議事録は、一部修正して、確定した。

1. 情報共有

<名取市からの情報提供>

⇒中央集会所が開設するにあたって、お披露目会を開催する。配布したチラシを説明。いまのところ管理は住民有志の会で行うものとし、19日に協定を結んだ。9月13日に行った西集会所のワークショップも盛況で、よい意見交換となった。次回は10月6日に中央集会所で開催する。(市)

・住民有志の会の名称はそのままとなっているのか？

⇒住民有志の会は、自治会を作るまでの準備組織で、今後の動向として内容が煮詰まれば準備会になると思う。今後、検討を深度化して、来月から具体的な自治組織の話し合いに移行する予定である。同時に住民ふれあいの交流会をしながら進めていきたい。(市)

・お披露目会のチラシは、閑上住民全部に配る予定なのか？

⇒そうだ。

・集会所は、市の所有のままか？

⇒住民組織に引き継ぐ予定だが、行政財産として建築後24年が経過したのちに、引き継ぐことになる。それまでは、当初の3年は、貸与契約を1年契約とし、更新していくが、3年経過後は自動更新となる。4月に自治会が発足すれば、住民有志の会から自治組織に引き継ぐことになる。(市)

・西集会所も同じながれか？

⇒そうだ。(市)

・現在の閑上公民館は？

⇒まだわからない。(市)

・住民同士では、小塚原に渡されるとの話も聞いた。小塚原北の自治会の集会所がないらしい。

・有効利用されるべきだが、住民情報なのでまだわからないだろう。

<前回からの動き>

⇒西の集会所のワークショップは、盛況で女性の参加者も多かった。

・女性を呼ぶことにより、使い勝手、台所の扱い方の意見がでてよかった。

- ・現場現地で確認しつつ、具体的な意見を聞けるのではないかと思う。
- ⇒来た人には、次回の参加の声かけをしており、掲示板などにも西集会所のワークショップの開催のお知らせを掲示している。
- ・石狩中学校と閑上中学校の交流は、成功裏に開催され、今後は、より関係性が密に、良くなりそうだ。

<今後の動き>

- ・今後のスケジュールを確認した。
- ・かわまちテラスの起工式の案内が来ていた。
- ・9月29日土曜日に広瀬川の1万人プロジェクトがあり、閑上浜も会場となる。現在443名の来場希望者があると聞いている。年々参加が増加しているので、今後はまぼうふうの会としては盛況な参加を期待している。

2. 秋祭りに向けて

- ⇒飲食提供をすることとしてはいるが、それ以外の展示などの意見が欲しい。
- ・5月にまちびらきなので、意見アンケートではないかなと思う。
 - ・公園の話とか、かわまちてらすの話に興味を持っているのかと思う。住民にとって何に興味があるのかというと、復興プロジェクトの動向、整備スケジュールなども聞きたいだろう。したがって、それらのプロジェクトを説明し、資料をもって家族に理解してもらうことがいいのではないかと思う。
 - ・まとまった情報がないので、図面を大きくして説明してもらうことがいいのではないか？
 - ・トレイルセンターなども説明が必要だろう。説明の場になるといいなと思う。
 - ・個別の情報だけでなく、つながっていくような情報提供をしていきたい。
- ⇒プレゼン大会のPRもできるといい。まちびらきがあることも知らない住民も多いので、周知していきたい。(事務局)
- ・まちびらき実行委員会についても意見を受けることも可能だろう。
 - ・以上の意見なども踏まえ、いろいろな意見を取り入れながら考えていきたい。
- ⇒復興プロジェクトの紹介チラシは、区画整理通信の作成のなかで作成し、復興促進イベントでも活用しているので、今後ともこの資料を有効活用していただければいい、まちの成熟にむけて、情報を強化していくことも、夢も持てると思う。(市)
- ・情報を住民がまったく知らない、まちびらきも知らない、情報を知らない、復興プロジェクトの情報提供はいいと思う。
 - ・広報は読まないなので、周知は難しい。
 - ・県道との立体交差の話も知らない。
 - ・熱気球のイベントもしらなかった。地域の人はいないようだった。情報が伝達されていない、
 - ・情報の一元化ができていないのではないか、新聞情報で知ることも多い。
 - ・周知しているつもりが、封筒も明けていない。スルーしていけない情報を住民に町会などが伝達しないといけない。
 - ・なんでも与えるだけでなく、情報を取りに行くことを伝えることも必要。教えないほうが悪いというスタンスを、情報を取りに行くというスタンスに変えるべきだろう。

⇒ちらしは結構見てくれた。(市)

- ・見てくれない人は見ないが、少しずつ、増やさないといけない。啓発活動も必要。

⇒町会を主軸とすべきだろう。(事務局)

- ・まちづくり協議会としては、どこまで住民への情報提供に手を出すかは、判断が必要だろう。
- ・上町でも、住民が集まりつつある。独自で町会をとっている人もいるので、どのような対応すべき、検討が必要である。

⇒情報の発信側にも問題はある。ネットワークの限定化では、地元で対応できないのでは思う。(事務局)

- ・最大限活用する場合に、もったいないことが多い。

⇒情報提供は重要だが、チラシ配布なども複数回実施することも、報告書も住民に配布する。ポスティングもしている。わからないということのないように、綿密な周知をしている。会議録も住民に配布し、何回もフォローしながら進めている、町内会では会費を集める必要があり、情報周知でできる限り浸透させたい。(市)

- ・震災前は生協や学校行事等で、そういう場で情報が共有されていたような気がする。
- ・商業施設などが集合場所になり、情報が拡散することもある。

3. まちびらきに向けて

⇒資料説明、日程を勝手に記載している。(事務局)

- ・仮の想定とすればいい。

⇒実行委員会にはシンプルに説明したい。日程の候補をだしておおむね了解を得たい。(事務局)

- ・学校も参加するのなら、土日だろう。平日 5 時スタートは無理だろう。
- ・実行委員会のメンバーには、開けてほしいという話だろう。
- ・手を挙げそうな団体は？参加しそうなのか？

⇒尚綱大学は大学として出すということを聞いている。、仙台高専も同様な体制と聞いた。

- ・まち協にも参加していただいているのでぜひ仙台高専にはアイディア聞きたい。
- ・各団体にお願いしたときに、いつやるのか、いつまでになにをやればいいのか、どこでなにをやったらいいいのかなど、何をやるのかわからないという意見が多く、内容を伝えればわかるかもしれない。
- ・すこし知恵出しをして、引き込むネタは必要だろう。企画の発意についても、お金の部分についても質問がある。
- ・サポーターがいるのだから、一緒に考えていくことが必要だろう。例題を提示しすぎると、プレゼンの意味を低くしてしまう。やりたいことを、場所と、予算は考えずに、という誘導も必要だろう。
- ・話をしていく必要がある。参加してほしい人がピンときていない。コンペみたいなものなので、誘導が必要だろう。
- ・まち協の伝える側も難しいとは思う。
- ・実際、気球も使いようだが、自由な発想をしてもらうような環境を示してあげるような方法がいい。
- ・テーマや意図をうまく生かして、提案することをわかりやすくするには、自由な発想だけでは無理だろう。
- ・強制ではないので、やってみたい願望を持つ団体をサポートすべきだろう。

⇒どっとなどりは、独自の発意について参加していくという反応である。とらえ方の違いは様々なので、企画者的な発想で、予算規模を考えないなどの話も出てくる。(市)

- ・それはそれでできる範囲で絞りこむなどの話もあり得るのではないかな。

⇒夢だけ描く、実質的など、提案の方向性はいろいろあってよい。(事務局)

- ・につめていく話はある。企画を実施にむけて精査していくことができると思う。
- ・提案に対する実現性や規模、予算などの深度化という側面も、サポートしていく必要がある。
- ・プレゼンとするには、アイデアをベースにうまく展開していくことが重要だろう。
- ・参考事例的なものを紹介しないと参加できない団体もあるので、ある程度提示することも重要だろう。
- ・団体への説明の仕方を整理していくべきだろう。
- ・参加団体が明確になれば、フォローもできる。
- ・この議論を説明すればいいのではないかなと思う。

⇒プレゼン大会参加要項となる資料だが、指摘はあるか？(事務局)

- ・提案内容を A3 判の用紙のフォーマットを作って示したらどうか？
- ・詳細な資料は別添も OK としたら？

⇒フォーマット例を作ってみる。(事務局)

- ・A3 横としたほうが良い。

⇒案内だが、まちびらきが主催ではないはずだ。(市)

- ・まち協とまちびらき実行委員会の関係性が分からない。
- ・まちづくり協議会が主催であるとすればいい。
- ・まち協と実行委員会の役員が同じなので、誤解を招く可能性がある。
- ・団体に個別で当たるサポーターが説明しないといけない。
- ・提案の規模の大きさを例示すべきかなと思う。
- ・六魂祭を閑上でやるみたいな大きな話から、ブレイクダウンしていけばいいのでは？

⇒東北祭りを集約、植樹祭などの順番か？(事務局)

- ・世界初・・・とか、伝統復活・・・とか、表現を工夫したら？
- ・米軍を呼ぶことも。例示としてはある。
- ・タイトルを濃い色の字で表現してほしい。

⇒11月10, 11, 17, 18の開催ならどこか望ましいか？

- ・17, 18日ならどうか？

⇒最初のことばをもうすこし研鑽したらどうか？何を求めているか、企画だけでなく、これからも、新しく関るものが何かなどの思いを書き込むべきでは？(市)

- ・まちびらきのとらえ方、まちびらきにむけて街を作って、再建しているが、今後の試金石として、8年という長い年月に、支援を受けたことへの感謝についても、まちびらきで実現したい。
- ・あたらしいまちについて、今後とも発展に向けた機会として、まちを育ていくにあたって、来訪者へその思いを提示していきたい。

⇒まちびらきは通過点であり、今後のより良いまちづくりに向けたターニングだということだろう。主催は名取市になる。実行委員会は企画運営もあるし、連名で主催もあるので、庁内で検討する。(市)

- ・実行委員会は主催にならないだろう。

- ・ステージでの踊りなども提案が必要？

⇒できれば、出してほしい。プレゼン大会資料は、団体向けの資料なので実行委員会に出すつもりはなかった。(事務局)

- ・両方でしたらどうか？企画内容を理解してもらいやすいと思う。
- ・仮でだすのがいいだろう。
- ・プレゼンの説明会をいつするか？参加者を集めて説明するのか、個別なのか、やり方を決めるべきだろう。
- ・できれば集まってもらいたい。
- ・世話役会のどこかで説明してもいいのでは？

4. その他

⇒仙台高専が受けた西松助成の件で、11月23日に小中学校との連携で実施予定、流しそうめんの予定が変更になりそう。アトリウムで、小中高生のワークショップ、ゼラリウムづくり、ゲームぼっぴき大きなもので、親子で参加できるものを実施予定。関フェスが仮のタイトル。今後、ちらしを作成し、説明する。時間は10:00から14時ぐらいである。

- ・まちびらきに向けて、やるが多くなっているので、世話役会を毎週やったらどうか？
- ・次回は、プレゼン大会の事前説明会の内容を検討する。事前説明会はプレゼン大会の1か月前にはやる必要がある。

⇒説明会の日程は9日、16日のどちらかだろう。

- ・16日でどうか？仮決めしておく。

以上

<次回世話役会>

- ・次回世話役会は10月2日(火)とする。

次回予定:世話役会(150) 10/2(火)18:30～名取市震災復興部会議室